

## 特集 絆を感じていますか？

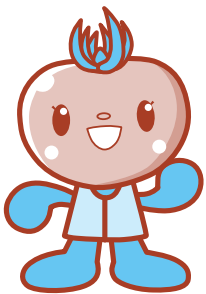
- 行ってきました With You さいたま
- 男女きらきらいっしょにプログラム登録団体紹介  
「北本市食生活改善推進員協議会」
- 輝いています！北本の女と男<sup>ひとひと</sup>  
「『え！こんなに違うの？』外国と日本の女と男」  
「子どもたちと仲間と、スポーツの楽しさを満喫!!」

# きずなの風を感じていますか



昭和 50 年の開園以来、入り口の子ども像とともに、子どもたちや親子のふれ合いの場としてにぎわうこども公園

あなたは、子どもとの関わり、夫婦や友人との仲、地域の中で積極的なつながりをつくっていますか



北本トマト  
キャラクター  
「とまちゃん」

ワーク・ライフ・  
バランスを大事  
にした、休日の  
親子のふれ合い  
(イメージ写真・  
市民提供)



昨年の東日本大震災以降、絆という言葉を目にするものが多くなりました。今回は、絆について、北本市インターネットモニターの皆さんにアンケートを行いました。

## 家族や地域のつながりの大切さを実感

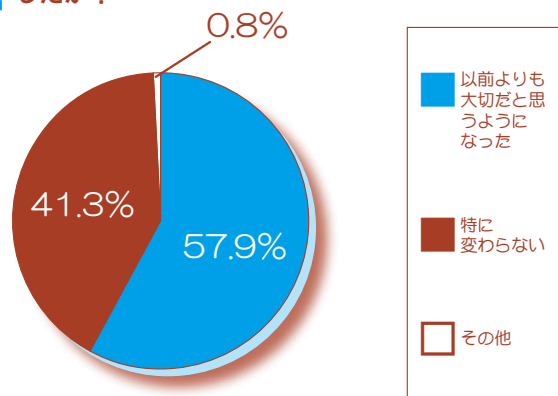
東日本大震災で、自然の大きな力を目の当たりにしました。人が生きていく上で、人と人の信頼感や地域のコミュニティなどの重要性を見直し、孤立感を解消することが大切だと考える人が増えたのではないのでしょうか。アンケートでも、半分以上の人が、震災前よりも家族や地域のつながりを大切だと思うようになったと回答しています。

## コミュニケーションを大切に

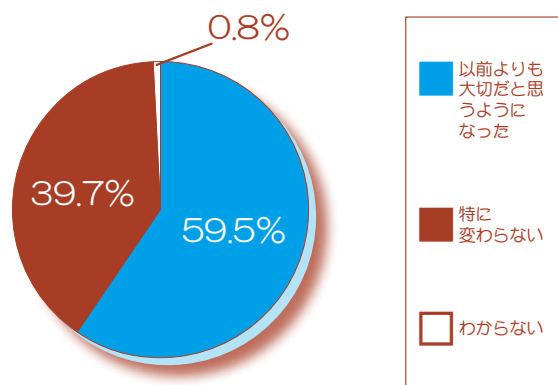
アンケートでは、家族の絆を強くするためには、話し合うことが大切だとする人が6割を超えています。地域のつながりを強くするためには、地域の行事に積極的に参加するとする人が38%になっています。いずれも、日ごろからのコミュニケーションが大切であるという意識が伺えます。

コミュニケーションを大切にすることで、お互い相手のことを理解し、助け合うことができます。自分のことをわかってもらっている安心感もあります。お互いの理解を進めることで、安心して暮らすことのできる地域社会を作っていけるのではないのでしょうか。

### Q 震災のあと、家族についての考え方に変化がありましたか？

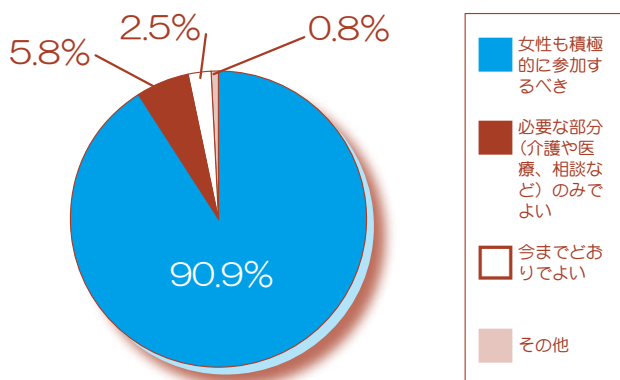


### Q 震災のあと、地域の絆やつながりについての考え方に変化がありましたか？

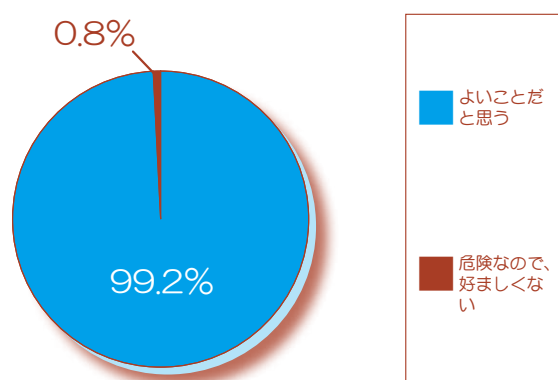


## 災害で見た、男女の役割と協力

### Q 防災や復興の分野にも、積極的に女性の参画を進めることについてどう思いますか？



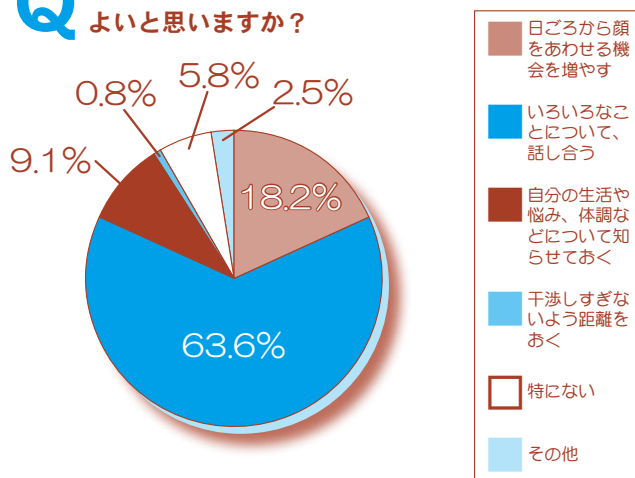
### Q 今回の震災で、被災地でボランティア活動をしている女性がたくさんいますが、どう思いますか？



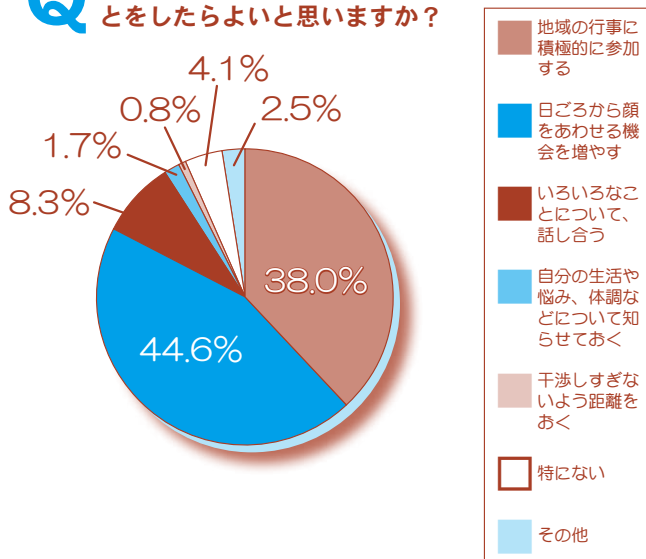
回答者 121人 (男性81人 女性40人)

※各項目の割合については、小数点第2位を四捨五入して  
いますので、合計が100%にならない場合があります。

Q 家族の絆を強くするために、どんなことをしたら  
よいと思いますか？



Q 地域の絆やつながりを強くするために、どんなこ  
とをしたらよいと思いますか？



私たちは、男性はこの仕事、女性はこの仕事といったイメージで役割を決めがちです。しかし、実際は、性別で限定されるものは少ないのです。

被災地にボランティアに行った方のお話では、女性の仕事と思われる炊き出しには、食材や鍋の移動など力が必要なことが多いため男性が活躍。また、男性向きと思われた「がれき」の処理には、「がれき」の中から写真などを見つけるなど細やかな配慮ができる女性が活躍していたようです。男女が協力して、うまく支援ができているのだと感じたと話していました。

男性、女性というイメージにとらわれていないか、ちょっと考えてみませんか。

東日本大震災により亡くなられた方々とそのご家族に対し、深く哀悼の意を表しますとともに、被害に遭われた方々や避難生活を続けておられる方々に心からお見舞い申し上げます。

## ボランティア活動に参加しました

40代男性 活動地域 福島県

私の知る被災地は福島です。復興の仕事に携わりました。震災・津波に関して、港湾、県道などの災害復旧に関係する調査です。そのほか、福島新潟豪雨に関する、土石流・道路復旧に関する調査をお手伝いしました

福島は、地震、津波、放射能、豪雨により、県全体が何らかの被害に遭っています。さまざまなものを失った今、誰もが本当に一番の大切なものは何かを、改めて考えたことと思います。

私はこう思いました。復興に立ち向かうとき心の支えになるべきものは、家族や友人や地域の人達を互いに思いやる心だと、そしてこの気持ちこそが「絆」なのではないかと。今回の経験からずっと大切に、決して忘れてはいけない心が「絆」です。

今、福島では、いたるところで「絆」の文字を見かけます。みんなが絆の文字を心に刻みがんでいます。

10代男性 活動地域 宮城県南三陸町

私は南三陸町に炊き出しのボランティアに行ってきました。その時、被災地の方々と触れ合うことにより、テレビで見るよりも大変さがわかったと共に、被害の少ない北本は、とてもありがたいと思いました。また、一緒に行った商工会青年部の方々とも仲良くなることができ、頻りに声をかけてもらい、世代を超えた絆ができたと思います。

被災地に行ったことで、いろいろなことが経験できて、とてもよかったと思います。「復興したら来てください」と言われたので、ぜひ復興したら見に行きたいです。また、今度行くときは、前回と違った意味で、手伝うことができたら最高です。

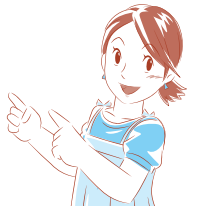
20代男性 活動地域 岩手県、宮城県

私は、岩手と宮城へ行き、仮設住宅の建設に携わりました。まず現地に行って感じたのは、道がボロボロだということ。震災の恐さを改めて感じました。最終日の帰りがけに気仙沼に寄り、その様子は嘘のように思えました。巨大な船が打ち上げられ、車もおもちゃのようでした。そのような状況でも現地の人は明るく、今やるべきことを理解しているように感じました。一日も早い復興を祈ります。

行って  
きました

編集委員レポート!

# With You さいたま



皆さんは、埼玉県の男女共同参画推進センター With You さいたまをご存知ですか？  
男女共同参画推進センターって、どんなところなのか、編集委員3人で、さいたま新都心にあるWith You さいたま取材してきました。

「埼玉県女性キャリアセンター」、  
「ヤングキャリアセンター埼玉」、  
「中高年就職活動支援コーナー埼玉」  
が併設されていて、女性だけでなく、幅広い年代の就職活動を支援しています。



入り口を入ってすぐ左手に、女性チャレンジ  
応援デスクがあり、イベントや講座、チャ  
レンジ相談などの情報を自由に調べることが  
できます。

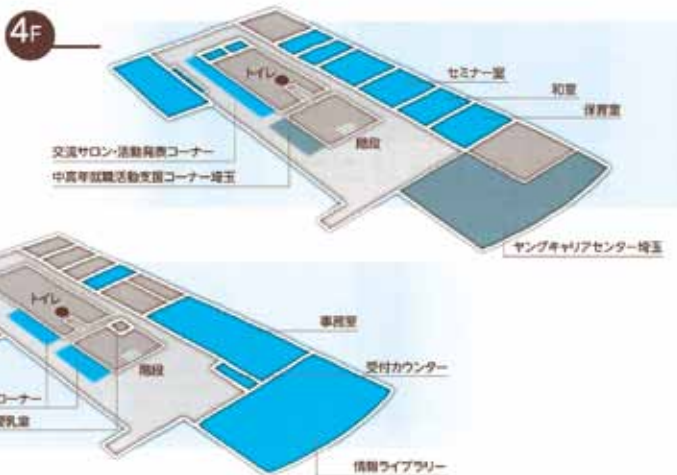
奥には、交流サロン・活動発表コーナーが  
あり、グループの活動発表や、打ち合わせ  
に利用できるスペースです。



入り口を右に行くと、情報ライブラリーです。  
3万6千冊を超える本があり、男女共同参画に  
関する資料が充実しています。おはなし会など  
も開催されていて、どなたでも利用できます。



With You さいたまでは、男女共同参画に関する  
講座や講演会が開催されています。保育（生後半年  
以上就学前まで）があるので、小さいお子さんがい  
ても参加できます。  
相談室では、女性を対象とした相談を受けていて、  
年間5千件もの相談があるそうです。



With You さいたま（埼玉県男女共同参画推進  
センター）は男女共同参画社会づくりのための総  
合拠点です。男女共同参画社会の実現に向けた県  
の施策を実現するとともに、県民の皆様や市町村  
の男女共同参画の取組を支援することを目的とし  
ています。男女がともに自立したパートナーとし  
てそれぞれの力を発揮し、あらゆる分野に対等に  
参画できるよう、次のような事業を行っています。

広報紙の発行、情報ライブラリーにおける図  
書や資料の収集・提供。男女共同参画基礎講座、  
男女共同参画週間講演会、大学共催講座。電話、  
面接、インターネットによる相談。経済的に困難  
な状況にある女性の自立支援、働きたい女性の就  
業支援、働いている女性のステップアップ支援。

With You さいたま  
tel 048-601-3111  
ホテルブリランテ武蔵野3・4F  
さいたま新都心駅から徒歩5分

私たちの会は、全国組織の中にあり、「ヘルスアップ講習会」や「男性料理教室」等の市の委託事業、「食育」推進、米粉利用等の国や県の補助事業、地域の方に依頼されたり、自らの向上のための料理教室等を、市の健康づくり課とも相談しながら楽しく開催しています。

夏休みに集中して6回開催している「親子料理教室」では、市内の小学3、4年生を中心とする子どもたちや、若いお母さんたちと学び、調理をしています。「おいしいね」「家族にも作ってあげたい」等の声を聞くと、お手伝いの推進員（ヘルスマイト）に自然と笑みがこぼれます。

今年は、北本で昭和初期に作られていた「石戸トマトクリーム」の再現に取り組みました。「石戸トマトクリーム」はポンテローザ種のトマトで作られ、海外や一流ホテルにも出荷されていました。市内の小学生や、他の団体の方々とも協力して、種、苗から育て、赤い完熟のトマトは生食や「トマトクリーム」にし、青い未熟なトマトは「ピクルス」に。とても旨みがあり、美味しくできました。



男性料理教室では、皆さん手際よく、楽しそうに料理していました。きっと家でも腕を振っているのでしょうね。

毎年11月の産業まつりでは、「食事バランスガイド」の説明や、減塩・バランスレシピ集「ヘルスアップクッキング」を配布。300部が足りないほど好評で、健康の為の食事づくりが、徐々に普及しているのを実感しています。

これからも更に、“食”を通して、市民の「健康づくり」に、ボランティアとして貢献できるよう、会員相互の親睦をはかりながら励んで参ります。皆さん!! お仲間になりませんか？

創立 昭和47年4月  
会員数 78人  
会長 佐藤道子



産業まつりでは、「1日に必要な野菜350グラムを測ってみよう」や「メニューを作ってみよう」など体験コーナーが好評でした。

「男女きらきら  
北本いっしょに  
プログラム」に  
参加しませんか？

市では、「男女」が「きらきら」と輝ける北本を、市民のみなさん、事業所のみなさんと「いっしょ」に作っていきたく、「男女きらきら北本いっしょにプログラム（北本市男女共同参画推進者登録制度）」を推進しています。団体でも、個人でも登録できますので、みなさんの登録をお待ちしています。  
問合せ 協働推進課男女共同参画担当（直通）048-594-5507

# 輝いています！

## 「え！こんなに違うの？」外国と日本の女と男 ～ネパール編～

マハルジャン シュリー クリシュナさん



シュリーさんは日本に来て7年。ネパール出身で、今は日本でお仕事をされています。今回、日本とネパールの違いについて、お話を伺いました。

### —ネパールについて教えてください。—

ネパールは、北はチベット、東と南と西はインドに囲まれている、非常に小さい山国です。エベレストは皆さんもご存知だと思います。私の出身地は、首都のカトマンズから南西に5キロくらいのところで、標高1300メートルくらいです。農業と観光が主な産業で、農業で生計を立てている人が多いですね。

### —日本では、男は仕事、女は家庭という意識がまだまだ強いのですが、ネパールではどうですか。—

ネパールでも、家の主は男で、外で稼ぐのは男性。稼いだお金から必要な金額だけを妻に渡し、妻はその中でやりくりしています。ヒンズー教の影響で、あととりに男の子を欲しがります。家の財産も男兄弟で分けることがほとんどです。女の子は、結婚して相手の家に入り、男の子が親の面倒をみるという感じです。

ネパールは民族が多いので、民族によって、言語や習慣も全く違いますね。民族が違うと言葉が通じないくらいです。それでも、家庭の主は男というのは、どの民族でも変わりません。男が外に仕事に行くので、女が農業と家のことをほとんどやります。男はお金が入る仕事をするけど、女は家で食べる分の野菜などを育てて、あまった分を売るということで、女性のほうが、お金を得ることが少ないのが現状です。

カトマンズなどでは、最近変わってきていて、女性も学校の先生や会社に勤めている人が多くなりました。結婚しても仕事を続ける女性がほとんどで、仕事をしないということは考えられないという感じです。ネパールでは、大家族で住んでいて、祖母や伯母などが家で子どもの面倒を見てくれるので、仕事を続けることに問題はありませんね。

### —日本では、会社のトップはまだ男性がほとんどで、リーダー的な役割も、ほとんどが男性です。—

ネパールも変わってきて、大臣などに女性になることはあるんですが、首相はまだ男性です。

私の家庭では、父が中心でしたが、自分のことは自分で決めるという感じで、子どもの意思を尊重してもらえました。専門学校レベルの大学進学は、男女関係なく、進学するようになっています。

### —日本の家庭とネパールとの違いは感じましたか。—

ネパールでは、家族や親戚を大事にする意識が強いですね。隣近所との交流もあって、何かあっても、すぐに相談したりするのが一般的です。日本はあまり隣近所とはかかわらないようになっていますね。ネパールはヒンズー教と仏教の影響で、週に1回はお祭りがあります。お祭りで親せきや友人と、しょっちゅう顔を合わせていますから、いつでも声をかけられるんでしょうね。

ネパールは、家族や隣近所とのつながりを大切にする伝統も守りながら、さまざまな分野で男女が協力していくように変わってきているようでした。シュリーさんのお話から、ネパールを身近に感じることができました。ありがとうございました。

### ネパール基礎知識



- 面積 14.7万km<sup>2</sup> (北海道の約1.8倍)
- 人口 2,804万人
- 首都 カトマンズ
- 言語 ネパール語

(外務省ホームページより)

# ひとひと 北本の女と男

## 子どもたちと仲間と、スポーツの楽しさを満喫!!

中丸ソフトボールクラブ監督 加藤博之さん



「ソフトボールをやっていて良かったことは、地元の仲間が増えたこと。特に40代後半から感じています」と語る小学生ソフトの中丸ソフトボールクラブ監督・加藤博之さんにチームの話や絆について伺いました。

### ソフトボールは“男女共同参画チーム”

加藤さんはクラブの監督を16年務めています。娘さんが小学4年生からソフトボールを始めたのをきっかけにチームとかかわり、気がついたら中心的な存在となっていました。チームは選手の数が減ってきたため、市内の他のチームと合同で練習したり、早くから男女混成チームをとって、日々の練習や各種試合に臨んできました。正に“男女共同参画チーム”です。

昔は女子チームだけでしたが、保護者からの希望もあり一緒に来ている選手の弟も交えて練習するようになったそうです。そのうち男子だけのチームもできましたが、人数が不足しているときは逆に女子も入れて練習してきました。男女ともごく自然に溶け込んでいます。「子どもたちを見ている限り、男女の違いはほとんどありません。ただ監督として男女別に気を遣うときもあります。男子には言葉遣いが多少乱暴でも、やってみせれば納得してもらえますし、女の子は、やさしく声掛けが必要なところはそうしています。女の子は、チームにごく少数なときでも、主導権を握るときもあります。子どものために始めたソフトボールですが、子どもから元気をもらい、自分のためになっていることを実感しています」。



### 信頼できる仲間—地域の絆

加藤さんは印刷関連の会社に勤務し、家庭は妻と2人の娘、妻の両親の6人家族です。「仕事は仕事で忙しくやっています。土日にこうした地域活動ができるのも、信頼できる仲間がいるからこそです。歯をくいしばっていたら長く続けられません。自分が出来ないことを仲間にお願ひする。また、家族の協力も必要なことです」と絆の大切さを語ります。チームのスタッフは、それぞれ、ノックやピッチング捕球など各自の得意とする分野を生かしてチームを支えています。

### スポーツの楽しさ

監督に今の目標を聴いてみました。「まず自分も含め仲間の健康を大事にする。そして子どもたちにスポーツの楽しさを伝えることを続けていきたい。子どもたちが卒業している思い出となるよう、またいつでも気軽に来てもらうことができるようにしていきたい」。



選手に大きく激励の声を飛ばし、時には笑顔を見せている監督の表情が印象的でした。

皆さん取材協力ありがとうございました。

### ▼中丸小グラウンドにて



# 女性相談(フェミニストカウンセリング)を開設しています

日常生活の中で、悩んでしまい、なかなか解決の方向が見えなくなってしまっていることはありませんか。

自分では解決したと思っているのに、何だか心がすっきりしないことはありませんか。

今は、インターネットやテレビなどで、さまざまな情報を得ることができます。しかし、情報があるだけでは、自分がどうしていきたいのか決めることは難しく、不安や悩みは増すばかりではないでしょうか。

女性相談では、悩んでいる方の気持ちに寄り添い、一緒に解決方法を考えていきます。

誰かに話してみることで、初めて自分の気持ちに気づくこともありますし、そこから解決の糸口が見つかるかもしれません。

今自分が、どうしたいのか。

自分にできることは何なのか。

一人で悩まずに、一緒に考えていきませんか。

## 女性相談(予約制)

- 相談日 第1・3水曜日 第2月曜日
- ところ 市役所相談室
- 予約・問合せ 協働推進課男女共同参画担当 Tel 048-591-1111 内線 2229

### 夫との関係…

夫が、家事や育児に協力してくれない。夫から「役立たず」と言われてつらい。

### 職場の悩み

上司や同僚と、どのように接してよいかわからない。

### 自分自身について

ついネガティブな考え方をしてしまう。

### 子どもの問題

子どもとうまくコミュニケーションがとれずに困っている。

### 親、親族のこと

母親との関係がぎくしゃくし、うまく会話ができず、疎ましく思う時がある。

### からだのこと

親には言いづらい。病院に行こうか迷っている。

### 彼のこと…

彼が話を聞いてくれない。彼の言うとおりにしないとキレル。

## ひとりで悩まないで…

### DV(ドメスティック・バイオレンス)とは

夫婦や恋人など親密な関係にある人から受け続ける暴力をDVといいます。暴力は親しい間柄でも、決して許されるものではありません。

体を傷つける暴力だけでなく、こんなこともDVです。

大声でどなる

大切な物を壊す

性的行為を強要する

子どもを利用して脅す

生活費を渡さない

行動を監視する

友人や家族との付き合いを制限する

## 危険を感じたら、迷わず110番

### 女性への暴力に対する相談窓口

DV相談窓口	電話番号	受付時間など
配偶者暴力相談支援センター(埼玉県婦人相談センター)	048-863-6060	月曜～土曜 9:30～20:30 日曜・祝日 9:30～17:00
With You さいたま(埼玉県男女共同参画推進センター)	048-600-3800	月曜～土曜 10:00～20:30 (祝日・第3木曜日は除く)
鴻巣警察署	048-543-0110	

\*受付時間など変更となる場合がありますので、各相談窓口にお問い合わせください。

## 編集後記

あの震災から1年になります。

震災当日、我が家は夜11時過ぎまで停電し、一番怖かったのは、テレビ・ラジオも聞けない中で、今状況がどうなっているのかが分からないことでした。そういう中で、幸いにも家族全員そろっていたので、何かあったら助け合おうという気持ちで一杯でした。

絆とは、助け合おう、喜び合おうなど、気持ちを共有し合う働き掛けだと思えます。また、個人の中の絆も大事ですが、地域ボランティアなど広域間、さらには個々人と“郷土日本”という関係の絆も意識していくことで、復興を早めていけるのではないのでしょうか。

今回、震災のこと、地域のこと、家族のことなど、編集委員でいろいろと話し合い、テーマを絆としました。ワーク・ライブ・パランスでは、絆を育てる時間を大切にしていきたいと思います。

最後に、編集にご協力いただいた皆様、ありがとうございました。

編集委員 木村利江子 加藤俊市 里見博子  
島野雅美 関 恵子

「シンフォニー」とは、交響曲のこと。いろいろな楽器が響き合って一つの曲を奏でるように、男女が力を出し合って、調和の取れた男女共同参画社会を創造できるようにと名づけられたものです。



北本市は地球環境に配慮した取り組みを進めています。

企画・編集 男女共同参画啓発情報紙「シンフォニー」編集委員

発行 北本市総合政策部協働推進課  
〒364-8633 北本市本町1丁目111番地 TEL 048-591-1111 (代表)

シンフォニー

第18号2012年3月発行